

特集

ごみを減らす。未来を創造する。

札幌市では、「スリムシティさっぽろ計画」に掲げる高いごみ減量目標を達成し、清掃工場1か所の廃止を目指して、平成21年7月に「新ごみルール」をスタート。「新ごみルール」の成果や、ごみを減らすために今できること、特集します。

新ごみルールのおさらい

平成21年7月から…

- 「雑がみ」の分別収集を始めました。
- 「家庭ごみ有料化」を実施しました。
- 「枝・葉・草」の分別収集を始めました。
- 製品プラスチック、皮革・ゴム類を「燃やせるごみ」に変更しました。

指定ごみ袋の料金（手数料収入）は、ごみ減量やリサイクルに役立てられています。



市民一人ひとりの努力で、ごみは大幅に減りました。

- 廃棄ごみ※量（平成24年度）平成16年度と比べて
- 焼却ごみ量（平成24年度）平成16年度と比べて

40.5% 減少

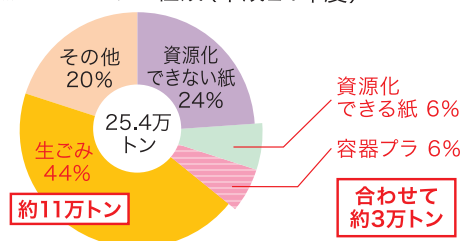
26.3万t 減少

篠路清掃工場を廃止
470億円の節約に成功
市民一人ひとりの努力の成果です。

※ 廃棄ごみ：燃やせるごみなどの資源にできないごみ

でも、まだ、減らせる余地があります。

燃やせるごみの組成（平成24年度）



例えば、きちんと分別する。生ごみの水を切る。それだけで、札幌が、世界が、そして未来が、今よりもっと輝きます。

ごみの分別は、次の世代に財産を引き継ぐ行動です。生ごみの水切りは、エネルギーを創り出す行動です。これまでに色々な課題を解決してきた札幌市民。きっと、もっと、ごみは減らせます。

？ 分別と次世代

分別されずに燃やされている容器プラは、原油換算で年間2,000万リットル相当（13億円分）。同じく紙類は、木材33万本相当（木造住宅1,400軒分）。きちんと分別してリサイクルすることで、天然資源の節約になり、限りある資源を次世代に引き継ぐことができます。次の世代に資源をプレゼントすると考えると、分別したくなりませんか？



？ 水切りとエネルギー

札幌市の清掃工場では、ごみが燃える際の熱で発電しています。このため、水分が減ると、ごみが燃えやすくなり、発電量を増やすことができます。1回の水切りで、LED電球（60w型）を3時間点灯させる電力が生まれます。生ごみの水分が札幌市全体で1割減ると、一般家庭1,500軒の年間消費電力に相当する電力が生まれます。未来を明るくするために、キッチンで発電（水切り）しませんか？



ごみを減らす。未来を創造する。今、出来ること。

紙類 資源回収又は雑がみに

できるだけ○に。○で出せない場合は、△で出してください。

区分	排出先	集団資源回収 P21	回収拠点 P22～24	雑がみ P15～16	燃やせるごみ P7～8
●新聞 ●雑誌 ●ダンボール		○	○	×	△
●紙バック類 ●チラシ・コピー用紙 ●ノート・カタログ ●パンフレット		○	○	△	×
●紙箱等の雑がみ類		×	○	○	×
●汚れた紙 ●紙おむつやティッシュ (未使用含む)		×	×	×	○

再確認 そのまま「雑がみ」に出せます。

- 窓付き封筒
- 出入口がビニールのボックスティッシュ（接着剤付き）
- ホチキスの付いた紙
- ビニール等は、可能な範囲で分けてください。

容器プラ は“使い切る” “軽く”すぐ

すすいでも少し汚れが残った容器プラ。これも、資源です。



トレイ・バックなどは、固形物が落ちる程度に“軽く”すすぐ



再確認 「容器プラ」で出してください。

- ペットボトルのラベル・キャップ
- 果物などのネット
- 緩衝剤・発泡スチロール

生ごみ 水切り“ギュッとひとしぼり”

水切りすれば、約10%減量。



札幌市が進める、新たなごみプラン。

平成26年3月、札幌市は「スリムシティさっぽろ計画（改定版）」を策定しました。この計画では、市民・事業者・札幌市のそれぞれの取組みにより、家庭から出る廃棄ごみ量を1人1日当たり380グラム以下にするなど、高い目標を掲げています。また、各家庭で特に実践してほしい3つのスリム行動を掲げ、その実践と習慣化を推進するとともに、それぞれの行動により達成してほしい目標を明確に示すため、スリム行動指標を新たに設定しています。詳しい内容については、札幌市ホームページをご覧ください。

家庭から出る廃棄ごみ量（1人1日当たり）



特に取り組んでほしい3つのスリム行動

- 1 指定ごみ袋の使用枚数を減らそう！
- 2 紙・容器プラをきちんと分別しよう！
- 3 生ごみは水切りしてから出そう！

その他のごみ量管理目標

- 廃棄ごみ量（事業系含む） → 3.0万トン以上減量（平成24年度実績：49.0万トン）
- 家庭から出る生ごみの量 → 1.0万トン以上減量（平成24年度実績：11.4万トン）
- リサイクル率 → 30%以上（平成24年度実績：26.7%）
- 焼却ごみ量 → 2.8万トン以上減量（平成24年度実績：43.8万トン）
- 埋立処分量 → 2.0万トン以上減量（平成24年度実績：9.8万トン）

スリム行動指標（目標）

- 1 1世帯当たり月10リットル1枚以上減量（平成24年度：月14枚）
- 2 燃やせるごみ中の紙・容器プラを1世帯当たり月1kg以上減量（平成24年度：月3kg）
- 3 水切りの実践世帯を8割以上に

分け方・出し方一覧
P3～4

指定ごみ袋
排出ルール
P5～6

燃やせる
ごみ
P7～8

燃やせない
ごみ
P9

スプレー缶・
カセットボンベ
P10

筒型乾電池
P10

容器包装
プラスチック
P11～12

びん・缶・
ペットボトル
P13

枝・葉・草
P14

雑がみ
P15～16

大型ごみ
P17～20

集団
資源回収
P21

回収拠点
など
P22～24

生ごみ
リサイクル
P25

さわやか
収集など
P26

資源の
ゆくえ
P27～28

自己搬入
P29

処理困難物・
危険物など
P30

家電4品目・
パソコン
P31～32

回収拠点
一覧
P33～50

分別辞典
P51～62